

はじめに

新冠町は、北海道の南部に位置する日高地方のほぼ中央部に位置しています。面積は585.81km²でその71%を山林が占めています。北東部は、幌尻岳をはじめとした日高山脈が連なる山岳地帯、南西部は太平洋に面した奥行55kmの南北に長い地形をしており、一帯は「夏は涼しく、冬は温暖」という特徴を持つ海洋性気候に属しています。



新冠町位置図

新冠町では「レ・コードと音楽によるまちづくり」を進めています。20世紀の偉大な文化遺産であるレコードの収集、保存に取り組み、まちの中核施設である「レ・コード館」には、100万枚を超えるレコードを収蔵しているほか、世界的に見ても珍しい蓄音機や黎明期のレコード盤など、歴史的価値のある文化遺産が展示されています。

また、町ではレコードを「レ・コード／RE・CORD」と独自に標記しています。これはリターン(RETURN)やリフレッシュ(REFRESH)の頭文字となる「レ／RE」と、ラテン語で「心」を意味する

「コード／CORD」を組み合わせた造語であり、「大切な心に帰る・心の再生」といった広い意味を持った言葉として使われています。現在も「思いやりと笑顔あふれる“レ・コードなまち”にいかっふ」を将来のまちづくりの形とし、町民ひとりひとりの心に寄り添った多様な施策に取り組んでいます。



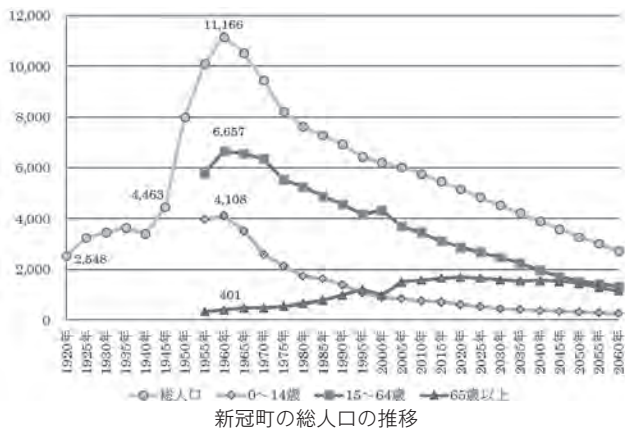
レ・コード館内ミュージアム

人口の推移

新冠町は、戦後、御料牧場の開放によって入植者が増加しました。その後人口は1,960（昭和35）年の11,166人（世帯数2,173世帯、1世帯当たり人員5.1人）をピークに減少を続けています。離農や高度経済成長による都市部への人口流出が加速したことなどを理由として、現在も減少は続き、2020（令和2）年時点での人口は5,309人となっています。さらに、国立社会保障人口問題研究所の人口推計では2035（令和17）年に4,500人、2045（令和27）年には3,988人まで減少し、4,000人を切る見込みとなっているほか、65歳以上の人口割合が42.4%と4割を超える推計となっています。

自然増減については、1996（平成8）年に出生数と死

亡数が逆転して「自然減」の状態となり、2005（平成17）年以降は死亡数が出生数を大きく上回る傾向が続いています。このまま推計どおりに人口減少及び高齢化が進展すると基幹産業の衰退や地域経済の縮小、税収などの減少による公共サービスの低下、出産子育て環境の悪化など、地域の経済・社会・子育て環境を支える機能に重大な影響を及ぼすことが懸念されています。



新冠町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要

平成28年3月、人口推移の現状分析と町が目指すべき将来人口を示した「第1期 新冠町人口ビジョン」をもとに、数値化目標を設定した「第1期 新冠町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。第1期では、国の基本目標を勘案し「地方における安定した雇用を創出する」「地方への新しいひとの流れをつくる」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」という4つの構成を基に、平成27年度から平成31年度までの5年間で施策を推進してきました。

第1期の検証では、「日高食肉センター」の企業誘致や「^{にしはくつ}西泊津地区レ・コードの森」の宅地造成事業等の実施にともなう、町内雇用の促進、子育て世帯の転入等に係る目標を達成しましたが、その一方で、子育てをしながら仕事をする環境の整備不足や、中長期的に見た転出者数の抑制、コロナ禍で減少した観光入込客数の回復に向けた取り組みの必要性があるという結果となりました。



宅地造成された西泊津地区レ・コードの森

令和4年4月、第1期の検証結果を反映した5カ年を対象とした「第2期 新冠町まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定されました。

第2期では、前期の基本目標を踏襲しつつ、効果が薄く、十分な実績に至らないと評価した「地方への新しい人の流れをつくる」、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について、取り組みの強化を行うこととし、「稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする」「地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる」「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」という4つの基本目標と、「多様な人材の活躍を推進する」「新しい時代の流れを力にする」という2つの横断的目標を新たに定め、あらゆる世代の誰もが笑顔で、いきいきと暮らしていけるまちを目指すべき姿と定め、施策に取り組んでいます。

基本目標と具体的な施策

【基本目標1 産業振興の活性化によるまちづくり】

産業の振興と雇用の創出は、第一次産業を主とする当町の人口確保対策及び地域の活性化にとって必要不可欠なものです。まちの基幹産業である第一次産業の振興はもちろんのこと、次の世代の地域産業を支える後継者や新たな担い手の確保と育成を強化するほか、企業誘致や起業を支援し、幅広い産業の雇用及び人材を確保しながら、地域経済の活性化と持続可能な地域社会の礎となる人材の登用・育成に努めます。

具体的な施策

○農業の担い手育成・確保

農業分野の新たな担い手を育成・確保するため、新規就農者と後継者の親元就農を推進し、持続可能な産業構造を構築します。



にいかつぶピーマンの収穫

○生産基盤の確立と農業経営の安定化

農畜産物の高品質化と、営農の効率化による生産性の向上を支援し、農業者の経営の安定化を図ります。

○森林循環サイクルの円滑な実施

森林が持つ公益的機能を持続的に発揮するために、伐採後の着実な再造林・保育・伐採の循環サイクルの継続実施を目指します。

○漁業経営基盤の安定・強化

漁場環境の整備や造成、種苗放流等の「つくり育てる漁業」を支援するとともに、漁具等の近代化、後継者の育成・確保を支援し、漁業経営基盤の安定・強化を図ります。

○商・工業経営の安定化と新規事業者への支援

他産業と連携した商・工業機能の向上を支援し、経営の近代化と地域の産業力向上、新規事業者への支援及び後継者確保対策を推進します。

○新たな雇用創出と人材の確保

定住・移住、企業誘致や起業を促進させる施策を強化することで地域経済の活性化と、新たな雇用を創出

するとともに、官民一体となった持続可能な地域経済・経営基盤の確立を目指します。

【基本目標2 新冠町へのひとの流れをつくるまちづくり】

全国的に類を見ない日常に馬がいる風景、豊かな自然、夏涼しく、冬は温暖な北海道内でも恵まれた気候と地域資源を最大限に活用することが、ひとの流れを生む基盤となります。令和7年度には、高規格幹線道路日高自動車道新冠ICが完成予定であり、観光のみならず定住・移住など、新たなひとの流れを創出し、多様な人材の誘致に努めながら、地域の活性化を図ります。

具体的な施策

○交流人口・関係人口の創出及び拡大

観光施設の充実と、地域資源を活用した新たな観光メニューの創出や観光ネットワークを構築し、交流人口・関係人口の創出と拡大を図るとともに、アイヌ文化の保存や伝承活動、さらにはアイヌ文化発信拠点整備を行い、双方のさらなる増加を図ります。



ポロシリ生活館内（令和4年落成）で実施したイチャルバ

○定住・移住の促進

定住お試し体験事業のほか、定住・移住に係る様々な支援を継続し、定住・移住の促進を図ります。

○新冠町の積極的なPR

町内はもとより、町外者や企業が新冠町に興味を持ち、応援していただけるためのPRを積極的に推進し、交流人口・関係人口の創出と拡大を図ります。

【基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり】

新冠町の合計特殊出生率は、全国平均とほぼ同じ水準となっているものの、出生数は年々減少しており、近年、自然減の状態が続く人口動態となっています。また、進学や就職を機に若い世代の多くが町外へ出ていく傾向が強く、これらのことが当町における人口減少の大きな要因となっています。この流れに歯止めをかけるためには、これからの地域社会を支える若い世代が安心して新冠町で結婚、出産、子育てができる環境づくりが急務となっています。この背景を踏まえ、結婚から子育てまで途切れない支援を行い、安心できる環境づくりを行います。

具体的な施策

○結婚の促進と出産へのお祝い

出生数の減少要因となっている未婚化・晩婚化に歯止めをかけるため、婚姻意欲の向上に向けた施策を促進し、出生数の増加につなげていきます。

○出産・子育て支援体制の充実

過疎地域における、出産や子育ての不安を払拭するための環境整備と支援を行い、町民の誰もが安心して出産に臨むことのできる体制の整備と、保護者ニーズに寄り添った保育・放課後児童事業の充実を図り、安心して子育てができるまちを目指します。



放課後こども教室

○教育の充実

対話を通じた深い学びを明確化し、児童生徒にとって必要となる能力の育成と、自ら判断し行動する経験を通した課題解決能力の育成を重点として、教育課程の連携と幼少中の接続を意識した施策を推進します。

【基本目標4】 思いやりと笑顔あふれるまちづくり

今後の時代の情勢を見据え、安心して住み続けられるまちを形成していくことが人口減少問題への対抗策につながります。このようなまちづくりを進めていくためには、行政だけではなく、民間企業や地域住民、さらには他自治体等とのこれまでにない新たな連携によって、お互いの強みを生かし、弱みを補完し合う連携の仕組みを構築していくことも効果的な施策につながります。

また、地域が元気であり、そこに住む“ひと”がいつの時代もいきいきと暮らすことのできる環境を形成し、より住みやすく、より魅力あるまちづくりも必要です。

このことを踏まえ、多様な主体との連携を図りながら、未来につながる地域づくり、ひとづくり、そして安心して暮らし続けられるまちづくりを進めます。

具体的な施策

○福祉施策・医療施設の充実

保健・医療・介護・福祉分野の総合的連携体制を構築し、地域生活・健康課題に対する支援やサービスを提供するとともに、新型の感染症や災害時の医療体制確保の観点から、計画的な医療施設整備を実施します。

○高齢者福祉の充実

高齢者が可能な限り介護を要しない健康的な生活を送れるよう、自立支援・介護予防に関する普及啓発を行うとともに、地域における自主的な活動を支援し、心身ともに健康で充実した高齢期を過ごせる環境を整備します。



高齢者の健康推進事業

○地域資源の活用と自然環境の保全

地球規模での環境問題が深刻化する中、カーボンニュートラルによる環境への配慮と貢献に取り組むとともに、ごみの減量化やリサイクル活動、合併浄化槽の普及を促進し、豊かな自然環境を基軸とする新冠らしい景観の形成を図ります。

○社会基盤の向上

少子高齢化の進行に伴うライフスタイルの変化、生活圏の拡大などを踏まえ、住環境や上下水道、道路、情報通信網など産業振興や地域経済を支える社会基盤の整備を推進するとともに、持続可能で安定した公共交通システムを維持・継続することで交通弱者の足を確保します。

○防災対策の強化

日本海溝・千島海溝沿いで発生が予測されている巨大地震やこれに伴う津波、また、近年激甚化している



町が実施する避難訓練

台風や集中豪雨等の災害から町民の生命・身体・財産を守るため、災害の種類に対応した避難体制の整備、情報収集・伝達手段の強化、自治会等のコミュニティ単位で機能する防災・減災体制の強化を図ります。

○生涯教育の充実

町民が生涯にわたって自主的に学ぶことができ、個人の成長と地域社会の発展を促す社会教育活動を積極的に推進するとともに、未来ある子どもたちの社会性を育み、健全な成長とライフステージに応じた生涯教育の充実を図ります。

○協働・連携によるまちづくり

地域における積極的かつ主体的な町民活動の促進とあわせ、多種多様な主体と行政の協働によるまちづくりを推進します。



少年国内研修交流事業

おわりに

全国共通の避けては通れない人口減少問題を抱える中で、持続可能で安定的なまちづくりを意識した行政運営に向けて、新冠町では新たな地域資源の有効的な活用が重要となっており、総合計画への展開とそれに伴う第2期総合戦略への波及も必要となります。今後も町民が何を求めているかを共に考え、そして練り上げながら、未来へつなぐまちづくりに取り組んでまいります。